

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300151		
法人名	株式会社ラディカ		
事業所名	グループホームフォーシーズン		
所在地	熊本県宇城市松橋町久具2059-1		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者それぞれの生活歴や病状などの背景を深く知ることその人らしさを大切に、日々生活される中で入居者の発言や表情を見逃す事のないようミーティングで職員同士話し合いながら入居者が長く安心した生活が送れるように寄り添うことを大切にしています。また、他事業所や地域の方々との関係が途切れないように地域での敬老会や毎月開かれるサロンなどに積極的に参加し、事業所内でのレクリエーションや法人内で開催する合同クラブ活動への参加も入居者の方々が楽しみを持って生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年に開設したホームでは、本人・家族の思いに応え看取りケアを協力医療機関との連携により実践しており、入居者の生活と生命を守る姿勢を高く評価したい。また、個々の思い等本人の立場に立って追求してきたことがプランニングに表れ、入居による環境変化に男性専用クラブ等残存能力を見出したケアがホーム生活の活性化として生かされ、おしゃれ教室やおやつ作り等集団及び個別ケアの充実が特徴の一つである。地域への回覧板を通じた情報発信や交流が地域との強固な関係となり、来年度には2ユニット目が認可される等これまで地域の中で築き上げてきたケア体制の成果が表れている。今後も法人全体での地域福祉への寄与や災害時の地域への貢献に大いに期待したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と職員休憩室に事業所理念を掲示し、ミーティングやカンファレンス時にいつでも確認して実践出来るように心掛けている。	『一人ひとりの歩みを大切にし、一人ひとりの今、この時に寄り添います。』とする理念を継続し、掲示により意識付けとしている。管理者はケアへの悩みや迷い時の指標として理念を想起させた話し合いを行っている。また、個人目標(行動目標)を基に、管理者による2ヶ月毎に面談し、進捗状況の確認及び指導する体制としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月フォーシーズン便りを発行し活動内容を地域の回覧板で掲示している。また、地域のいきいきサロンへの参加や、月に一回傾聴ボランティアの方に来ていただき地域との関係が途切れないようにしている。	地域の行事(敬老会・どんどや等)への参加や入居しても在宅時の地区のいきいきサロンに参加される等地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。また、グループホームへの入居(在宅時は閉じこもり)が、地域へ出かける事で楽しみとなり改善された事案や、施設全体で交流を続けることで生活にメリハリとし、春には地域との合同桜まつりが開催されている。これまでの地域への啓発が行き届き、地域との関係性が深まり、確固たる基盤が築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に区長や民生委員、住民代表1名に参加していただき、認知症の方への理解と支援方法を説明し、地域で困っていることはないかなどの情報交換を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して入居者の日頃の様子や生活状況を報告し、参加者からの意見などを聞きサービス提供の参考にしている。	法人の3事業所が合同で開催。法人としての運営や入居者状況の報告、資料により質疑応答や事業所のケア内容を知る機会としている。小規模多機能・グループホーム・サービス付き高齢者住宅の違いを発信する機会や、地域の情報によりサロン等への参加や、地域に隠された人材発掘(ボランティア等)に反映される等有意義な会議が定期的に開催されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市担当者からの参加もあり、意見交換を行っている。また、分からないことがあればその都度相談するようにしている。	日頃から行政とのかかわりを持ち、増床(2ユニット目)も認可され、毎回運営推進会議に参加もあり、その都度事例相談や情報を発信している。地域包括支援センター主催の研修参加や年に1回はグループホーム連絡協議会に行政からの参加があり意見交換会を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会開催して正しい知識を身につけ実践出来るように心掛けている。また、身体拘束廃止委員会を法人内で発足し、不適切なケアがないように取り組んでいる。	全事業所で身体拘束廃止委員会を発足し、事例発表により情報を共有している。身体拘束排除マニュアルを基に拘束による弊害等を説明したうえで、委員会を開催し、入居者の徘徊等の行動には理由があると捉え、目的や原因を探る必要性やグレーゾーンがなにか等具体的に話し合っている。家族の了解の下、転倒予防として人感センサーを使用することもある。また、外出傾向の高い入居者対応として玄関にチャイムセンサーを設置している。	国道に隣接したホームであり、危険防止にセンサーが取り付けられている。今後も、入居者の所在確認や見守りの徹底に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃ケアする中で不適切なケアはないかミーティングで話し合い、法人内での勉強会などにも参加し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で権利擁護についての議題を挙げ職員が成年後見制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者やご家族が不安なことがないように質問などには丁寧に答えるようにし十分に納得して利用が開始できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回運営懇談会を開催し、ご家族の不安な事や疑問など十分話を聞くようにし、ご家族の意見や要望は職員間で話し合い実践できるように心掛けている。	家族には訪問時の説明や遠方の家族には電話により意向等を聞き取り、毎月請求書とともにフォーシーズン便りを送付し情報を発信している。年2回家族会として運営懇談会を開催し、家族との意見交換や運営推進会議の議事内容、身体拘束廃止委員会の取り組みを報告している。家族からは行事内容の質問やホームではどこまで見てもらえるものかなど不安の声もあがり、看取りケアを説明している。また、ホームに言い出しづらい事案もあるとして、外部の機関を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回管理者会議に出席し、会議内容は職員に伝えている。また、毎月リーダー会議を開催して職員の声を聞き、何かあったら管理者会議の議題としている。	毎週法人代表も参加される管理者会議により、運営状況や入居者・職員の状況等を話し合い、職員も何かあれば管理者を通して申し出る体制としている。現場の問題(職員からの要望等)は全リーダーで話し合う体制としており、職員とのコミュニケーションを図っている。法人全体で職員を育て、フォローする体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や人事考課を行い職員の家庭環境を把握し、就業時間等を考慮して働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会や外部研修など職員に可能な限り出席を促している。また、資格取得を目指す職員に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区グループホーム連絡会に加入している。また、勉強会や研修などを通じて情報交換を行っている。		

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後安心した生活が送られるよう不安な事がないように今までの生活歴や入居後の要望などを本人様やご家族から聞く機会を設け情報収集を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず施設内を見学していただき、不安な事や要望を聞き心配事には丁寧に答えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には本人様やご家族を交え担当者会議やカンファレンスを行い、必要事を見極めサービスを導入するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で食事の準備や片付けと一緒にし、役割や楽しみを持って生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方で暮らされているご家族とはこまめに電話で状況を報告しながら本人様とご家族の関係良好であるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月地域のいきいきサロンへの参加や傾聴ボランティアの来訪を楽しみにされている。また、地域の行事にも積極的に参加し支援している。	入居者個々の生活歴を把握し、地域の生き生きサロンへの継続した参加や、敬老会への参加や合同事業所での行事参加が知人等馴染みの地域の人々との交流する機会として生かされ、傾聴ボランティアや訪問美容の継続なども馴染みの関係が築かれている。初詣や、盆・正月の外出等家族の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者同士トラブルがあったときは職員が間に入りしっかりと話を聞き解決し、行事やレクリエーションを通じて良好な関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やサービスが終了した後もご家族との関係を絶たず、いつでも相談してもらえるように体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションを通して本人の希望や思いを把握するようにし、面会時や電話などでご家族にも伝えるようにしている。	入居者との会話の中から思いを引き出し、昔こんなものを作って食べていたや食べてみたい等をおやつ作りに取り入れ、意思疎通困難な場合にはバックボーンをリサーチし、家族の意向の聞き取りや、職員が行動や言動等を推察しながらケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や入居前のケアマネジャーからの情報を職員が把握し本人様との日頃のコミュニケーションからも生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態などをケース記録に残し、状態や心身の変化時などは個人の申し送りノートに記載して職員間で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にモニタリングやカンファレンスを行い遠方に暮らすご家族とは電話で本人様の状況をその都度報告し、確認を取り介護計画を作成している。	入居前から家族と話し合い、入居者の望む暮らしについて家族も含めて検討している。入居者のしたい・していた事の継続や、出来る事を職員が見出しプランに反映させ、モニタリングにより短期目標の継続可否を見極めている。男性クラブへの参加やカラオケ教室、あみ物等特長のあるプランである。また、退院後には(状況変化により)プランを見直す等現状に即したプランである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や気になることはケース記録や入居者一人一人の申し送りノートに記載してミーティングや申し送り時にスタッフ全員が目を通し報告し合う事で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望や要望に添えるように日々のミーティング時に話し合いその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のいきいきサロンへの参加や傾聴ボランティアなどの地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より月に2回定期訪問診療を依頼しており、利用者の健康状態を把握している。また体調の変化や緊急時にはご家族と連絡を取り専門医を受診する事で安心した生活を送られるように支援している。	入居時にかかりつけ医については、看取りまで行う体制である事を踏まえ、協力医療機関の存在を説明している。協力医療機関による定期訪問診療が行われ、体調不良時にはその都度受診に出向いている。夜間の緊急事体制が確立し、看護職員を中心に入居者の日々の健康管理に努め、健康情報提供表や往診連絡票等により主治医との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や入居者の状態を看護師は把握し、体調変化時には主治医に相談して適切な指導や援助を受け主治医と連携を図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が定期的に面会し、状態の把握に努め担当看護師や病院の相談員と連絡を取りいつでも退院出来るように主治医と連携を取るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会などで重度化や終末期に付いての方針を説明しご家族や本人様の今後の意向を知り、ご家族に事前指定書に記入していただいている。	殆どの家族がホームでの看取りを希望されており、昨年2名の支援ができたことについて、夜間も訪問してくださる協力医の存在が看取りケアができる要因の一つとしている。ホームでできる事・できない事を明確にし、入居者一人ひとりのケアについて検討している。また、事前指定書を交わすものの、家族によつての意見の違いにも配慮し、随時家族の思いに応えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡体制などを職員間で話し合いし備えている。AEDを備え使用方法を消防署に依頼して実技講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立会いのもと防火避難訓練を行っている。また、避難訓練を運営推進会議の日と合わせて行い行政の方や地域の方に見学してもらい意見をいただいている。	年2回に火災を想定した総合避難訓練を実施している。初回の訓練には消防署の立ち合いにより、入居者も実際に行動し、避難状況などを確認している。2回目は3月に運営推進会議を利用して、参加者とともに昼間想定訓練を予定している。自然災害に備え、備蓄として食品・その他を確保し、内容を職員間で共有している。	有事の際の避難所が地域の小学校となっていることについて、自然災害時に移動することが困難であり、地域の協力が不可欠であるとしている。また、強固な建物は近隣者の避難所として検討中であり、地域への還元の一つとして大いに期待される。地域との連携が必要と思われ、今後も運営推進会議を生かしながら話し合いを継続いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に対応することを心掛け不適切な声かけはないか職員同士話し合いながら対応している。	運営推進会議の資料等、入居者の名前はイニシャル表示により情報漏洩やプライバシーへの対応やホームページ等の写真の掲示も同意を得ている。入居者への尊厳について言葉使いには特に注意を払い、職員同士が注意喚起している。会議の中でトイレへの声かけ時に「トイレはどうですか?」「もう出てないですか?」などの例をあげ検討し、プライバシーについても勉強会により共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人様の意思を確認しながら自己決定を尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で話し合いながら散歩や外出を個別に行い1人ひとりのペースを大切にケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては起床時や入浴時必ず職員が確認し、自室の洗面台には化粧水や乳液など自由に置き使用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の状態に合わせた食事を準備し、食事の準備や片付けなど負担にならない程度職員と一緒にお手伝いしていただいている。	日々の朝食と炊飯は毎回ホームで行っているが、他は法人厨房で作られている。リーダー会議に厨房から担当者が参加し、入居者の食事状況や好みを把握して献立に反映している。入居者が調理に関わることはないが、食後の後片付けなどできることで参加し、週1回手作りおやつの日を設けて馴染みのお菓子作りに取り組んでいる。行事食や誕生日の夕食などの支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態を考え刻み食や治療食を提供し食事の摂取量が把握できるように記録に残している。また、必要に応じ水分チェック表を用い水分不足にならないように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の声かけや見守りで口腔ケアを実施し必要に応じて介助している。訪問歯科診療にて歯の治療やメンテナンスを定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い職員がそれぞれの排泄パターンを把握し声かけ誘導している。夜間は排泄用品を使い分け本人に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表で個々のパターンを把握して、定時の声かけや入居者個別に誘導をおこないながら、日中はトイレでの排泄を基本としている。夜間帯にポータブルトイレを使用する方はおられず、自立の方にはトイレでの排泄を支え、ベッド上での排泄用品の交換により対応している。排泄用品の使い分けについて外部講師による指導も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて水分摂取量を把握できるようにチェック表を用い水分摂取を促している。入居者に合わせ薬に頼らず自然排便出来るように飲食物を選び毎日の体操なども取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴後は必ず掃除をしてお湯入れ換え変気持ちよく入浴できるように心掛けている。また、入浴時間など本人の希望や要望を尊重している。	入浴時間は決めておらず、1日おきを目安に対応し、安全に配慮しながらなるべく湯船に入ってもらよう工夫している。汚染時にはシャワー浴による清潔保持や入浴拒否の方には、人や時間を変えて無理に誘うことのないよう配慮している。菖蒲や柚子などの季節湯にも応じているが、柚子は特に皮膚の弱い方には注意を払い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の様子から意向を捉え、自室やホールのソファで休んでいただくように声かけし、夜間は無理強いするような就寝がないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように薬ケースに説明書を貼り付け薬の変更や追加があった時は個人の申し送り表に記入して全員が理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付けなど負担にならない程度職員と一緒に手伝いしていただいている。料理が得意な入居者がその日のおやつを作られるなど楽しみを見つけ実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から行きたいところなどを把握し職員間で話し合い外出できるように支援している。	地域のいきいきサロンやどんどこや、敬老会などに継続して参加し、入居者が地域の人々と交流する機会をもっている。隣町へ地藏祭りや法人主催のさくら祭等へ出かけている。集団での移動が難しくなった現在、短時間での外出を支援し、家族の協力による外出や外食の機会も支援している。	日々の散歩や季節的な部分での外出等地域へ出向くこともままならない状況の中でも、個別的な外出支援が行われている。今後も、外に出やすい時期等に入居者の希望に応じた外出を支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金をお預かりして管理している。入居者にはお金を預かっていることを十分に説明して買い物時好きな物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人への連絡は自由に電話できるようにしている。遠方に暮らすご家族にはご本人に電話していただけるよう声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用のトイレやお風呂などはこまめに清掃し、使用される方が不快にならないように心掛けている。	幹線道路に面したモダンな外観のホームは、外音も無く、室内にも至る所に工夫を凝らしている。リビングにはテーブル席のほか、窓に面したカウンターテーブルが設置され、窓越しの風景がリビングを中心とした入居者の目を楽しませている。日中は職員との会話や新聞、チラシを見ながら過ごされており、職員は意識して共有空間の衛生管理に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺のカウンターに椅子を並べ外を眺めながら新聞を読まれたり、ソファで談笑されるなど自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具やテレビを持ち込まれ、備え付けのチェストの上にはご家族の写真や制作物を好きなように飾られている。	新たな入居には、家族に必要な品の持ち込みを依頼するとともに、室内の広さや入居者の動線を考慮して物品を持ち込まれるよう話している。ベッド、整理ダンスが備えられているが、中には大型家具やテレビ、冷蔵庫などの持ち込みもみられる。ベッドの頭周りに小物を置かれる方、ラジオが好きな方、男性スタッフと手作りした木工作品を飾る方など、個人の部屋として楽しみながら生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の身体能力に合わせ準備や片付け、掃除など職員と一緒に取り組まれている。		